

令和4年度 社会科実践・研究計画

部 員	○石田 智之, 鈴木 聡, (渡部 和朝)
-----	-----------------------

研究テーマ
自らの学習状況を見つめながら、主体的・協働的に学習問題の解決に取り組み、よりよい社会を考える子どもを育む学び

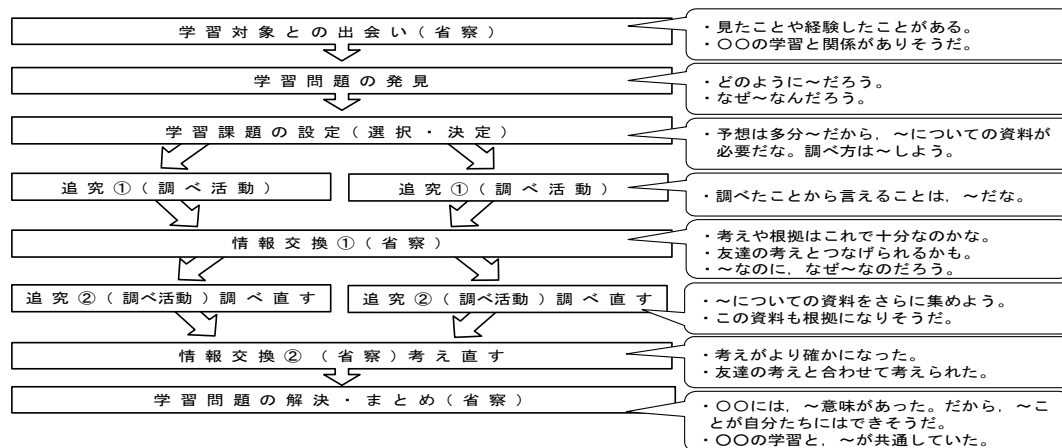
1 研究テーマについて

社会科では、社会的事象について捉え直すことを通して、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする子どもを育むことが重要である。よりよい社会を考えるとは、社会的事象の追究を自分ごととし、自分たちにできることを考えたり、自分の意見を決めたりすることである。そのためには、社会的事象について複数の立場や意見を踏まえ、多角的に考察し、広い視野で捉える必要がある。さらに、社会的事象は多様な解釈ができるため、仲間と協働的に問題解決に取り組むことを通して、自らの学習状況を見つめ、自分の考えを発展させようとする姿を引き出すことが期待できる。学習問題の解決のために、必要感をもって調べ直したり考え直したりすることは、社会的事象を多角的に考察し、広い視野で捉えることにつながるであろう。

昨年度までの実践において、自らの学習状況を見つめ、学びをつないでいく力を高めるための手立てが課題となった。そこで今年度は、社会的事象について広い視野から捉える学びのものを子どもと共有するための手立てを重点とし、実践・研究を進めていく。必要感をもって調べ直したり考え直したりすることで、社会的事象を多角的に考察し、広い視野から捉えるための学びのものがさしが確かになり、よりよい社会を考え主体的に問題解決する姿を引き出すことにつながると考える。

社会科で目指す自律した子どもの姿

- ・学習問題の解決に向けて見通しをもち、自らの学習状況を見つめ、調べ直したり考え直したりしながら社会的事象を追究している姿。
- ・社会的事象の特色や相互の関連、意味について、根拠や理由を明確にして説明している姿。



2 研究の重点〈○は具体的な取組の例〉

社会的事象について、広い視野から捉える学びのものを子どもと共有するための手立て

- 学習問題の解決を自分ごとにするために、資料提示と発問を工夫する。
 - ・例えば、複数の資料を提示し、相違点や変化の理由を問いかける。
- 必要感のある省察につながる情報交換の場を設定する。
 - ・互いの考えのずれや曖昧さを情報交換によって焦点化し、全体で共有する。
 - ・収集した資料や思考ツールを活用した情報交換とする。